本森百景

京橋図書館だより
第12号
令和８年９月１日号
中央区立京橋図書館
中央区新富一丁目13番14号

【地域資料室 特集】
大銀座祭の記憶 1968 ～ 2026

「第1回大銀座祭 パレード」（1968）

「紙で再現！ GINZA 1964」
（都立大崎高等学校制作）
地域資料室前に展示しています

「銀座アキュイユ オープニングセレモニー」
（2001）

「オータム銀座
交通安全ゴールデンパレード」（2025）

画像提供／銀座街づくり会議

本の森 ちゅうおう
HON no MORI CHUO

中央区立京橋図書館 Chuo City Kyobashi Library
中央区立郷土資料館 Chuo City Chuo Historical Museum

《本森百景 Vol.12 目次》

表紙
P.２・３ 大銀座祭の記憶
1968 ― 2026
P.４・５ 2026年1月～6月開催イベント
本の森イベント報告
P.６ 多目的ホールで毎月開催の
イベント「星空ひろば」
P.７ 図書館員おすすめ本のご紹介
P.８ ボロノイズが誕生しました！

大銀座祭の記憶 1968→2026

銀座の秋の風物詩として親しまれた「大銀座祭」。今回は、1968年に始まった祭りの歩みを振り返りながら、銀座が大切にしてきたまちづくりの理念をたどります。

熱狂の大銀座祭　1968→1999

第１回大銀座祭「光のパレード」（1968）
松屋銀座前を進む花自動車を、大勢の観客が見守る

1968 大銀座祭のはじまり

原点は東京オリンピック

１９６８年に始まった「大銀座祭」の原点は、１９６４年の東京オリンピック開会式のパレードにあります。当時、銀座通連合会催事委員長だった木村四郎氏が、テレビで見た鼓笛隊や郷土芸能の行進に感銘を受け、「開幕パレードを銀座通りで再現したい」と提案したことがきっかけでした。

大銀座祭の中心行事がパレードになったのも、この原点によるものでしたが、銀座は明治時代から祝賀行事や行幸啓に伴う行進行列のルートとなっており、パレードは街の歴史とも深く結びついていました。（参考図書①）

祭りを告げる街角（1968）
キャッチフレーズは「伸び行く銀座 世界の銀座」

近代化と明治百年が後押し

祭りの構想が具体化した背景には、当時の銀座を取り巻く時代の追い風がありました。都電廃止後の再整備によって、電線地中化や歩道拡幅、御影石舗装が進み、銀座は近代的な街へと生まれ変わりつつありました。

さらに政府が進める「明治百年祭」に銀座がいち早く賛同したことで、総理府の後援を得ることにも成功します。（参考図書①）

銀座の総力を結集

準備には明治百年記念大銀座祭実行委員会を中心に、銀座通連合会、銀座百店会、観光協会、町会や通り会など43団体が参加し、電通も加わって本格的な企画へと発展します。また、資金集めでは企業や店舗、関係者の協力に加え、銀座通連合会会長の発案による「一日１００円募金」が実施され、開催に必要な資金を確保しました。（参考図書②）

旧ソニービルの電光広告看板（１９６８）
大銀座祭開催を祝い、掲げられたメッセージ

第1回大銀座祭開幕

１年10ヶ月の準備期間を経て、１９６８年10月に「明治百年記念大銀座祭」を開催。期間中は、銀座八丁クイズ、写真コンクール、ワゴンセールなどが行われ、最終日の「光のパレード」では少年少女の鼓笛隊、それに続き全国各地の郷土芸能の踊りや山車の行進などが華やかに行われ、フィナーレでは、協賛各社が趣向を凝らした50台の花自動車が銀座の街を煌びやかに彩りました。祭典に出演した人の数は延べ５千人、運営を支えた関係者を含めると１万人にものぼり（参考図書③）、期間中は50万人を超える来場者でにぎわいました。（参考図書④）

第1回大銀座祭クイーン銀座王冠
クイーンに贈られた王冠／中央区立郷土資料館所蔵

■幻の大銀座祭

じつは「大銀座祭」の名称は、1968 年より前にも使われていました。毎年恒例の柳まつりを発展させる形で、1954 年に第 1 回大銀座祭が開催されます。会期中は「クイーンギンザ」コンテストや街頭パレード、写真コンクール、生け花展など様々な催しを実施。銀座八丁目では、「東京行進曲」の歌碑の除幕式も行われました。「クイーンギンザ」の審査員には、伊東深水や東郷青児ら当時を代表する文化人が名を連ねています。（参考図書③）しかし、「大銀座祭」の名称は定着せず、翌年には「銀座まつり」、その後は「柳まつり」とも呼ばれるようになります。このため、1968 年に始まる大銀座祭とは別の催事として、後に「幻の大銀座祭」と呼ばれるようになりました。（参考図書⑤）

大銀座祭シンボルマーク
デザイナーの亀倉雄策氏が光をテーマに制作

■大銀座祭クロニクル

2021 「オータムギンザ」縮小開催
2020 新型コロナウイルス感染症の影響により「オータムギンザ」中止
2010 「オータムギンザ」初開催
2004 「プロムナード銀座」初開催
2002 「銀茶会」初開催
2001 「銀座アキュイユ」初開催
1999 「第32回大銀座まつり」開催（これを最後に休止）
1997 パレードをインターネットで公開
1988 天皇陛下のご病気に伴う自粛のため、中止
1976 大銀座まつり記念たばこを販売
1973 「銀座八丁神社めぐり」初開催
1971 「第4回大銀座祭」開催（以降恒例行事に）
1970 「銀座百年大銀座祭」開催
1969 「万博協賛大銀座祭」開催
1968 「明治百年記念大銀座祭」開催

22回1989年　11回1978年　9回1976年　8回1975年　4回1971年　3回1970年　2回1969年

ポスター／中央区立京橋図書館所蔵

1999 大銀座祭の休止

時代の変化と新たな挑戦

1999年に開催された「第32回大銀座まつり」を最後に、祭りは一旦休止となります。背景には、運営にかかる経費や労力の増大に加え、「パレード中心の祭りは時代に合わなくなったのではないか」という声がありました。また、当時は金融危機や企業倒産が相次ぐ深刻な不況下にあり、銀座を取り巻く環境も大きく変化していました。その一方で、町内会や通り会等が参加する「全銀座催事実行委員会」が新たに発足し、時代に即した新しい祭りのあり方が検討されました。（参考図書②）

■テーマソング「銀座音頭」と「若い銀座」

大銀座祭の開催にあたり、「祭りにはテーマソングが必要だ」との声から生まれたのが、「銀座音頭」と「若い銀座」です。この2曲の制作には日本歌謡界を代表する顔ぶれがそろい、大銀座祭の象徴として32年間にわたり親しまれることになりました。「銀座のためなら」と多くの関係者が制作に協力し、費用は一切かからなかったと伝えられています。（参考図書⑤）

「銀座音頭」
作詞：西条八十　作曲：古賀政男　唄：美空ひばり
一、銀座うれしや　都電も消えて　踊る音頭も　チョイと　コリャサ
踊る音頭も　広々と　広々と　銀々銀座は　若い町
恋の花咲く　夢の町　（参考図書⑥）

大銀座祭からオータムギンザへ　2001－2026

2001 銀座アキュイユの誕生

「おもてなしの心」をテーマに

2001年、大銀座祭に代わる新たな催事として「銀座アキュイユ」が誕生します。「アキュイユ」は仏語で「歓迎する、もてなす」を意味し、銀座を訪れる人々を「おもてなしの心」を持って迎えようと言う思いが込められていました。（参考図書②）

第1回は、日本・シンガポールFTA締結を記念した国際交流事業として開催され、シンガポールの国花であるランをテーマにしたフラワーアート、パレード、スタンプラリーなど多彩な企画が展開されました。（参考図書⑤）

「銀座アキュイユ」（2001）
銀座和光前に設置されたシンガポールの象徴であるマーライオン像

2004 プロムナード銀座

銀座らしい文化催事の誕生

2004年、催事は「プロムナード銀座」へと名称を変更しました。それまで3回続いた銀座アキュイユを発展させ、「銀座にふさわしい催事とは何か」をあらためて問い直して生まれた企画です。「銀ブラ」、「創造性」、「世界性」をキーワードに、大量集客型のイベントではなく、来街者が街を歩きながら楽しめる文化的な催事を目指しました。（参考図書⑤）国内最大級の野点イベント「銀茶会」は銀座アキュイユ時代から続く催事でしたが、プロムナード銀座では銀座の回遊性や逍遥性を象徴する企画として位置づけられました。（参考図書②）また、「画廊の夜会」なども開催され、文化や芸術を通じて銀座らしい魅力の発信が図られました。

2010 オータムギンザへ

銀座の魅力を街全体で発信

2010年10月、秋の催事は「オータムギンザ」として新たにスタートしました。店舗単位でも参加しやすい仕組みづくりが進められ、これにより、銀座全体がひとつになって来街者を迎える催事へと発展していきます。街中でジャズを楽しめる「ギンザ・インターナショナル・ジャズフェスティバル」（現在は終了）や、銀座の飲食店が参加する「ギンザ・レストランウィーク」がスタート。また、銀茶会では、建築を学ぶ学生による「学生創作茶席」が、若い才能の発表の場となっています。文化、音楽、食を通じて銀座の魅力を発信する催事へと発展していきました。（参考図書⑤）

コロナ渦を乗り越えて

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オータムギンザは中止となりました。翌年は規模を縮小して開催し、銀茶会では飲食企画に代えて「フラワーアーツ in 銀茶会」を実施。歩行者天国で生け花のライブパフォーマンスを行い、新たな形で銀座の秋を彩りました。

オータムギンザ「銀茶会」（2023）
コロナ感染症対策のもと開催された銀茶会

2026 受け継がれる祭り文化

銀座らしさを未来へ

祭りの形は時代とともに変化してきましたが、「銀座らしさを発信し、人々をもてなし、街全体で楽しむ」という精神は一貫して受け継がれています。

現在のオータムギンザは、かつての大銀座祭の賑わいと、銀座アキュイユやプロムナード銀座で培われた文化性をあわせ持つ、銀座ならではの秋の催事として親しまれています。

●画像提供／銀座街づくり会議

オータムギンザ「交通安全ゴールデンパレード」（2025）
約60年の歴史を持つ恒例のパレード

■オータムギンザ2026

10月16日（金）～11月3日（火・祝）

●10月18日（日）秋の銀座 交通安全ゴールデンパレード
●10月25日（日）銀茶会
●10月31日（金）・11月1日（土）銀座八丁神社めぐり

●参考図書

①『私の銀座風俗史』ぎょうせい
②『銀座らしさの継承と創造』銀座通連合会
③『銀座わが街』白馬出版
④『銀座』明治百年記念大銀座祭実行委員会
⑤『次の、100年へ。次の憧れ。』銀座通連合会
⑥『銀座文化研究 第2号』銀座文化史学会
すべて地域資料室に所蔵しています。

■京橋図書館関連イベント紹介

●8月21日（金）～11月18日（水）
3階貴重書庫前展示
「移りゆく銀座の街
―文明開化・震災復興・高度経済成長」
●9月18日（金）～10月14日（水）
2階地域資料室前展示
「商いが育てた銀座150年」
●9月26日（土）14時～16時
多目的ホール
講演会「銀座のこれまでとこれから
―GINZA VISION 2040を考える」
●9月27日（日）10時～16時
多目的ホール
資料と映像でたどる「銀座と大銀座祭」

2026年1月～6月開催イベント 本の森イベント報告

児童対象イベント

1月18日（日） 午後2時～3時

本の森ちゅうおう人形劇「おやゆび姫」

ぱぴぷぺぽ劇場をお迎えし、本の森ちゅうおうでは初めての人形劇公演を開催しました。暗幕が設置された会場に、３歳から小学生までのお子様とご家族の皆さまに、たくさんご参加いただきました。感覚を刺激して楽しむことができる人形劇の世界に、お子様はもちろん大人の方も引き込まれていました。人形劇に触れる機会が少なくなっているなかで、デジタルでは表現できない温かな公演は、参加者からも大変好評でした。

人形劇「おやゆび姫」

児童対象イベント

3月8日（日） ①午前10時～10時40分 ②午前11時20分～12時

「グローバルおはなし会」

楽しみながら外国の文化や言語に触れる機会として、英語を中心とした外国語のおはなし会を開催しました。講師による英語の読み聞かせや手遊びに合わせて、みんなで体を動かしたり、声を出したりしました。オペラ歌手がピアノ伴奏に合わせて英語でディズニーメドレーを歌い、手拍子でリズムをとって盛り上がりました。英語でエーデルワイスの合唱もしました。最後はイタリア語でハッピーバースデーを歌って、３月生まれの人をお祝いしました。

グローバルおはなし会

1月11日（日） 午後2時～4時

亀島川から考える「水の都」東京の未来像

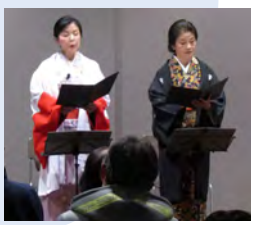
（一社）亀島川にぎわい創出協議会・代表理事、皆川典久さんを講師に迎え、「水の都」東京の未来像を考える講演会を開催しました。講演では、江戸以来の東京の地形と水路の歴史、震災や戦災による水辺の変容、国内外の水辺空間活用の先進事例等が紹介されました。２つの水門によって親水的護岸を実現している亀島川をモデルケースに、治水と親水を両立させ、街の資産として水辺を再生する東京の新たな可能性が示されました。

皆川典久氏

2月8日（日） 本の森ちゅうおう朗読会（午前の部 午後の部 計2回）

「浮世の憎け いつの世も～江戸時代に生きる人々の哀歓を読む～」

毎年ご好評をいただいている「も・ある」による朗読会の第３弾。今回は江戸時代の人々の生きざまを描いた３作品と「寿限無をみんなで楽しもう」を披露していただきました。「寿限無」では皆さましっかり声を出して、楽しそうに読み上げていました。締めの演目の「曽根崎心中」より「道行」の朗読では、演者二人による掛け合いの朗読に、照明や音響の効果も加わり、迫力ある圧巻の朗読となり皆さま圧倒されたご様子で、朗読というものに満足して帰られました。



も・あるによる朗読会

4月21日（火） 午前10時30分～11時45分

Melody Brewz：本の森ちゅうおうミニコンサート

小さなお子様連れでも気軽にご参加いただき、楽器の演奏を楽しんでいただくをコンセプトに開催するコンサートも７回目となり、今回はフルート奏者の蔦岡ひかりさんとピアノ奏者の尾崎慶子さんをお招きしました。フルートの他にいろいろな種類のオカリナを用意していただき、「トトロのテーマ」や「月の光」などをオカリナアレンジで演奏してくれました。皆さまは、見慣れないオカリナに興味津々でした。お二人の軽妙なお話しも、とても面白く、和やかで楽しい演奏会でした。

本の森ちゅうおうミニコンサート

6月3日（水） 午後6時～8時

小説から舞台、映画へ ―『国宝』に至るまで

話題の映画『国宝』の原作監修を務められた児玉竜一先生をお招きし、芝居の世界を描く小説の魅力やその舞台裏、映画化作品についてご講演いただきました。前半は小説『国宝』やその映画化にまつわるエピソードを、後半は貴重な往年の邦画映像や、近年注目される作家や作品についても幅広くご紹介いただき、朗読も交えながら楽しく学びました。舞台と映画・文学の魅力をあらためて感じる貴重な機会となりました。

児玉竜一先生

2026年1月～6月に1階多目的ホールで開催された数々のイベントの中から、選りすぐりのイベントをご紹介します。イベントを楽しみに、心待ちにしている方も増えてきました。ぜひ会場の雰囲気を味わってください。また毎月ごとにテーマを変えて、おすすめの書籍を展示する展示コーナーもご紹介します。

児童対象イベント

4月26日（日）①0~2歳向け：午前11時~11時30分 ②3歳以上向け：午後2時30分~3時10分

「子ども読書の日 記念おはなし会」

毎年恒例の子ども読書の日 記念おはなし会を開催しました。「本に親しむ」をテーマに、大型絵本や大型紙芝居の読み聞かせ、パネルシアターを行いました。みんなで手遊びやわらべうたも楽しみました。3歳以上向けの会では、工作も行いました。カプセルトイのケースを使って、カプセルヨーヨーを作りました。ヨーヨーにシールを貼って飾り付けて、それぞれが個性的なヨーヨーを作っていました。みんなで楽しむ特別な一日になりました。

子ども読書の日 記念おはなし会

児童対象イベント

5月16日（土）①午前10時~10時30分 ②午前11時~11時30分

「親子でいっしょに、わらべうた！」

親子わらべうた協会・副代表の国岡先生をお招きして、0～2歳児と保護者を対象にわらべうたを中心としたおはなし会を開催しました。通常は平日開催ですが、「土日に開催して欲しい」という声にお応えして、初めて土曜日に開催しました。「茶つみ」の歌からはじまるプログラムは季節にマッチしていて、参加者全員が存分にわらべうたを楽しんでいました。先生と参加者、そして参加者同士もコミュニケーションを取り合って、楽しいひとときになりました。

親子でいっしょに、わらべうた！

3月3日（火）午後6時~8時

第5回本森亭 金原亭馬生落語会

馬生師匠と馬吉さんをお迎えし、落語会を開催しました。馬吉さんには「中沢道二」と俗曲「寄席の唄」をご披露いただき、軽妙な語り口と粋な芸で会場を和ませていただきました。馬生師匠は「紙入れ」に続き、大ネタ「居残り佐平次」をご口演いただきました。人物描写の巧みさと緩急ある展開で、噺の世界へ観客を引き込み、聴きごたえある高座となりました。古典落語の魅力と寄席芸の奥深さを存分に味わうひとときとなりました。

金原亭馬生師匠

3月28日（土）午後6時~7時30分

本の森16mmフィルム映画上映会

デジタル化の進展により、現在では希少度の高い16㎜フィルムの上映を行いました。会場には昔ながらの映写機が稼働する音が響き、参加者はフィルムならではの色調や音の味わいに深く見入っている様子でした。上映した「クマタカ 森の精」・「森林と人間 日本人と木の文化」は、森の美しさや生態系、人との関わりをテーマとした作品で、好評をいただきました。上映を通してアナログの魅力を再発見できる、特別な講座となりました。

16mm フィルム映画上映会

6月13日（土）午後2時~4時

光の芸術 花火をまなぶ

公益社団法人日本煙火協会の河野氏をお迎えし、火薬の歴史、花火の変遷や種類、鑑賞方法に至るまでをご講演いただきました。普段親しみのある花火について体系的に学ぶ機会は少なく、参加者は終始高い関心をもって耳を傾けていました。本年は区制施行80周年の節目にあたり、10月には東京湾大華火祭の開催が予定されています。打ち上げ花火の名称や花火玉の仕組み、適切な観賞場所、通な掛け声など、強い関心が寄せられ有意義な学びの機会となりました。

日本煙火協会：河野氏

展示コーナー

「歴史の足跡」（1月期）「食文化」（5月期階段展示）

京橋図書館では、あらたな本との出会いをお手伝いするために毎月テーマを決めて資料の展示を行っています。各階展示コーナー11ヶ所と階段展示5ヶ所で、図書館員が工夫を凝らした展示を行っています。1月期の3階の一般展示コーナーでは「歴史の足跡」と題して歴史に関する書籍を、5月期の階段展示では、「食文化」と題して食やグルメに関する書籍を展示いたしました。

3階 一般展示コーナー（1月期）

階段展示（3～4階、5月期）

多目的ホールで毎月開催のイベント「星空ひろば」

「本の森」が、ほんのひとときだけ「星の森」へ。多目的ホールのオープンな空間を活かし、気軽に星空や宇宙に触れることができる特別な空間になります。毎月、幅広い世代の方々が星に出会える、さまざまなイベントを行っています。ぜひ一度お越しください。

★ほしぞらシアター

まず、こども向けの星や宇宙にまつわる動画を見ていただきます。そのあと当日の星空をご紹介します。乳幼児の方はベビーカーのまま観覧も可能。「(うちの子が)30分間も見ていられるかな?怖がるのでは?飽きちゃうのでは?」など、もしもの時にはいつでも退出できるので安心です。小さいお子さま連れの方に好評です。

★星空さんぽ

当日の星空や、宇宙・天文の話題についてご紹介します。幅広い年齢の方が対象で、プロの解説員がご参加の皆さまの反応を見ながら解説するので、いつ来ても違うお話を楽しめます。終了後も多くの質問が飛び出し、天文・宇宙への好奇心が満たされます。

幻想的な雰囲気の星空さんぽ

★あの日の星空カード

来場者に、見てみたい年月日をリクエストいただいて、その場で、その夜の星空をスクリーンに映し出して、解説します。「○○座が見えていたのですね」「惑星が見えていましたよ」など、その星空の見どころを解説員が、ご紹介します。ご自身やご家族などの誕生日や記念日のご要望も、よくいただきます。そして、ご覧いただいた星空をポストカードのサイズの用紙にプリントアウトして、プレゼントいたします。

あの日の星空カード

★星空ヨガ

大人対象のリラックスプログラムでヨガを行います。「星空ひろば」で1・2の人気を争うイベントです。まず当日の星空のご紹介をし、次に、イスに座ってできる上半身ヨガを行います。講師はプロのヨガインストラクター。非日常的な雰囲気の中で、内なる宇宙に向かい合う時間をお過ごしいただきます。終了後の参加者の皆さまは、心も身体もすっきりなさった様子です。

心も身体もすっきり星空ヨガ

★ドームプラネタリウム

多目的ホール内に直径7mのエアドームを設営し、当日の星空の紹介をします。半球型のドームに足を踏み入れる瞬間は、子どもも大人もワクワクであふれ、頭の上の満天の星に手を伸ばすこども達の様子は微笑ましいです。解説員と入場者の距離がとても近いので、「あのあたりの星を線でつなぐと何に見えるかな?」「三角!」など、活発なやり取りが生まれます。異空間の中で、見知らぬ宇宙に想いを馳せることができます。

ドームプラネタリウム

★天体観望会

屋上に望遠鏡を設置して実際の夜空に向けて、その夜に見ごろの天体をいくつか観望します。こちらも大人気のイベントです。日が沈んでも街明かりが明るい中央区の夜空ですが肉眼で星を探したり、望遠鏡で観察したり、その合間に飛行機や宇宙ステーションを見つけたりと、楽しい時間を過ごすことができます。「中央区でも、星って、意外と見えるんですね!」と毎回のように感想をいただきます。

図書館屋上で天体観望会

★「工作教室」
★「スペシャルデー」

宇宙・天文をテーマにした「スペシャルデー」や児童の夏休み時期などに行う「工作教室」を開催しています。年に2回行う「工作教室」では解説を聞きながら、短時間でできる工作を行い、作ったものはお持ち帰りいただけます。夏休みの工作の宿題にも役立ちます。年1回開催の「スペシャルデー」では、天文学者や専門家を講師に迎え講演会や、講演会のテーマに関連したワークショップを開催します。楽しいお話に目を見開き耳を傾け、その後はさまざまなワークショップで自分の手を動かすことで、より宇宙や星が身近になります。

短時間で完成!工作教室

スペシャルデー講演会

図書館員おすすめ本のご紹介

今年も京橋図書館の図書館員が、一般資料、児童資料、ティーンズ向け資料、地域資料室資料、各ジャンルから自分が特におすすめしたいと思う資料を厳選してご紹介します。ぜひ手に取ってご覧ください。

【一般資料】『書庫をあるく』

本書は、全国各地の図書館・資料館にある、普段は入ることができない閉架書庫に収められている本や、その土地に根付く歴史、今働いている人への取材をまとめた一冊です。国内唯一の公的な映画専門の図書館「国立映画アーカイブ」でのノンフィルム資料の収集の歴史。日本を含めた東洋全域を網羅するコレクションを構築する「東洋文庫」を支えている、約二万四千冊に及ぶモリソン文学の膨大な蔵書の数々。こうした様々な書庫の魅力を、あなたもぜひ覗いてみませんか？

作者名：南陀楼綾繁／著　出版社：皓星社
請求記号：010.2 ナ　所蔵場所：４Ｆ一般

【一般資料】『食べ物でたどる世界史』

本書は、トウモロコシやさとうきびなどの「食べ物」に注目し、古代から現代までの世界史の出来事を解き明かした、14 か国で刊行された世界的ベストセラーです。人類の狩猟から農耕への変化、産業革命・戦争への影響、現代のエネルギーや食糧供給といったテーマだけでなく、穀物と神話の関係、人参など身近な食べ物の栽培・家畜化、スパイスの語源など、意外な事実も楽しめる一冊となっています。

作者名：トム・スタンデージ／著　新井崇嗣／訳　出版社：楽工社
請求記号：611.3 ス　所蔵場所：５Ｆ一般

【児童資料】『ぞうのフニフとわにのワムくん』

ぞうのフニフとわにのワムくんは仲良しの友だちです。風がどこから来るのか不思議に思ったフニフは、ワムくんと一緒に風のかくれ家を探すことにします。風船のついたカゴに乗り、風に飛ばされて進むふたり。無事に風のかくれ家を見つけることはできるのでしょうか。フニフとワムくんの登場するおはなしが 4 つ入った短編集です。

作者名：はせがわ さとみ／作・絵　出版社：佼成出版社
請求記号：913 ハ　所蔵場所：２Ｆ児童

【児童資料】『キャロットバトン』

私立体育大学付属小学校に通う友真は、実は運動が苦手です。本当は、運動より童話を書くことの方が好きなのに、親にも友達にもうまく伝えられません。ある日、いつも童話を書いていたニンジン色のノートを図書室に忘れてしまい、大ピンチ！でも、見つけてくれたのは、友真と同じように運動が苦手な女の子でした。一緒に童話の続きをリレー形式で書くことになり、仲間を募ります。タイプの違う仲間とつづっていく童話の結末は……

作者名：こまつ あやこ／著　出版社：毎日新聞出版
請求記号：913 コ　所蔵場所：２Ｆ児童

【Teens向け資料】『ぼくたちの卒業写真』

実家が卒業アルバムの撮影を請け負う写真館で、カメラマンを目指す蔵木幸也。人と関わるのが苦手で、一人が楽な彼のあだ名は『暗すぎクラギ』。ある日、人気者の星野君が、卒業アルバムの個人写真をもっと自由に撮りたいと提案してくる。幸也は骨折した父親の代わりに、嫌々ながら撮影を引き受けることになる。撮影を手伝う星野君と共に同級生の撮影をするうちに、それぞれの隠れた内面に触れることになる。

作者名：天川栄人／著　くまおり純／絵　出版社：文研出版
請求記号：Y 913.6 テ　所蔵場所：３Ｆティーンズ

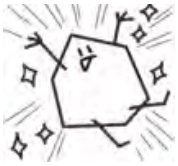
【地域資料室資料】『しかけに感動する「東京名庭園」』

本書は、庭園デザイナーの視点で日本庭園の「美しさのしくみ」を解き明かす一冊です。浜離宮恩賜庭園などの大名庭園から、文豪や芸術家に愛された庭園まで、東京の 17 庭園を厳選。巧みな技術や“しかけ”をわかりやすく解説するほか、歴史や管理者の視点、最高の鑑賞ポイントまで網羅しています。単に眺めるだけでなく、作り手の意図を「読み解く」ことで、見慣れた東京の風景から新たな魅力を発見できるガイドブックです。

作者名：鳥賀陽百合／著　出版社：誠文堂新光社
請求記号：K 62 ウ　所蔵場所：２Ｆ地域資料室

京橋図書館のキャラクター

ボロノイズ が誕生しました！



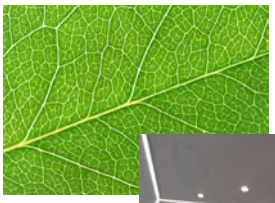
【ボロノイズとは？】

本の森ちゅうおうの壁や床、天井の照明ラインなどに取り入れられている「ボロノイ図形」から生まれたキャラクターです。

【ボロノイ図形とは？】

葉脈やハチの巣など自然界に見られる不思議な模様で、本の森ちゅうおうの建物のデザインに使われています。

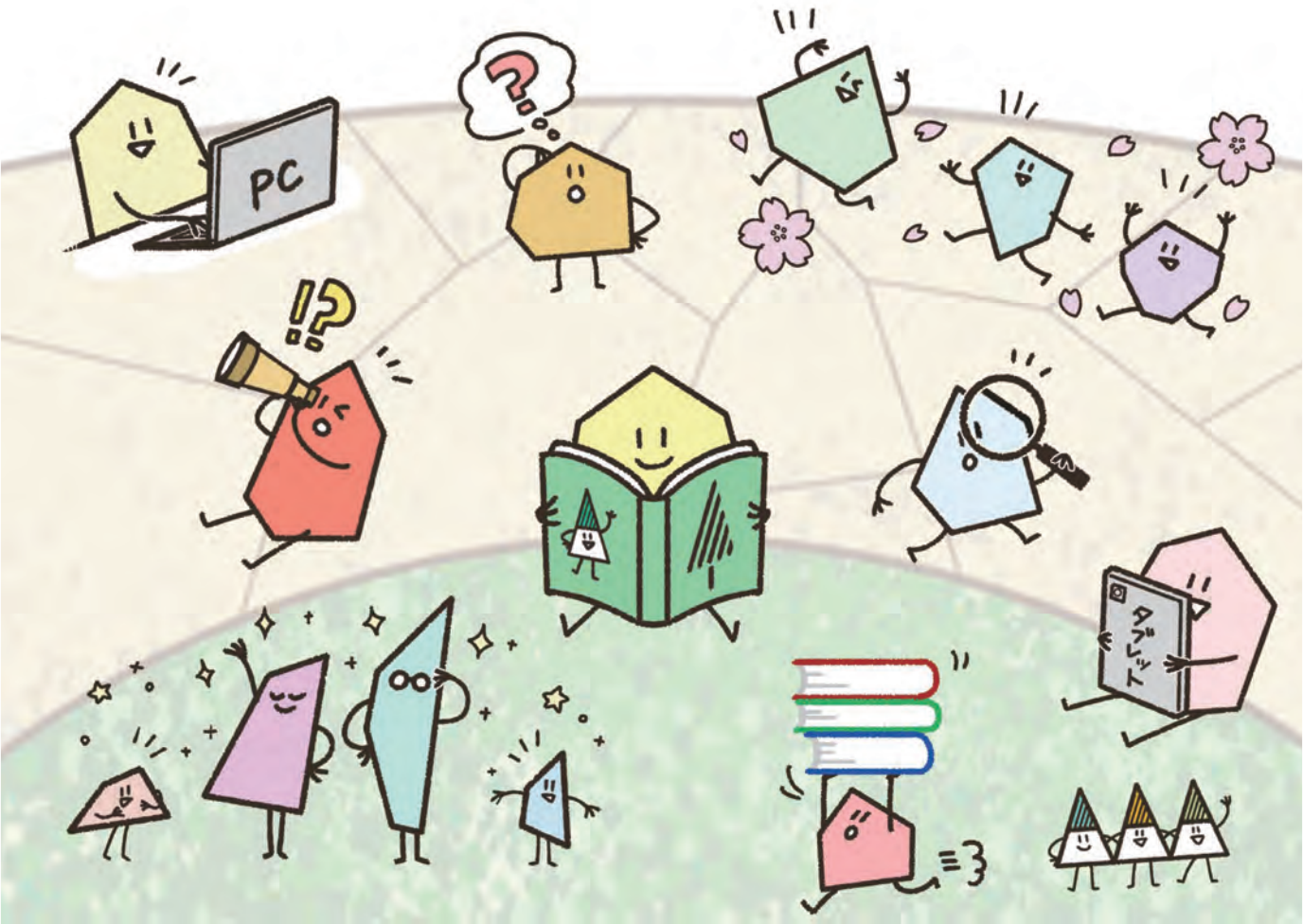
決まった形があるのではなく「その時、その場所にいるもの」に合わせて柔軟に境界線が決まり、さまざまな形に姿を変えます。



葉っぱの葉脈

「ボロノイ図形」を模した天井

図書館のポスターや本森百景など、様々な場所で活躍していきます！



編集後記

この4月から京橋図書館長が交代し、新たな体制での本森百景づくりがスタートしました。第1弾となる12号は「大銀座祭」大特集です。図書館の豊富な資料に加え、銀座街づくり会議様にも貴重な写真をご提供いただき、読み応え・見応えのある記事になったのではないかと思います。みなさま、いかがでしたでしょうか。よろしければ本森にお越しの際にぜひ感想などをお聞かせください。これからも京橋図書館ならではの視点で、中央区の魅力を多角的に収集・発信してまいります。どうぞご贔屓に。京橋図書館館長